



第27回マルちゃん杯中部少年柔道大会 実施要項

1 目的

柔道試合を通じて、心身の鍛錬及びその技能を磨き、将来を担う中部・北信越の少年相互の親睦を図り、明るく、正しく、そして逞しい少年の健全育成を目的とする。

2 主催

長野県柔道連盟 東洋水産株式会社

3 主管

長野県柔道連盟

4 後援 (公財)全日本柔道連盟、長野県、長野県教育委員会、(公財)長野県体育協会、松本市、松本市教育委員会、松本観光コンベンション協会、(財)松本体育協会、中日新聞社、SBC信越放送、長野放送、テレビ信州、長野朝日放送、(社)長野県柔道整復師会、(株)アップルランド、ベースボールマガジン社「近代柔道」

5 日時 平成27年5月31日(日) 開場 7:30

開会式 9:00 終了予定 16:30

6 会場 松本市総合体育館アリーナ

〒390-0801 松本市美須々5-1

電話: 0263-32-1818 FAX: 45-1024

7 参加資格

- (1) 対象は小・中学生とし、現に各加盟団体の小・中学校に在学している者であって、「学校」「柔道場」「クラブ」「スポーツ少年団」単位とする。なお、各種目において1所属団体につき1チームを上限とする。但し、開催県については、2チームを上限とする。
- (2) 選手本人の出場意思を確認し、健康に十分な配慮を行い、申込者の責任において、必ず保護者並びに団体の承認を得ること。
- (3) 出場チームは、指導者が必ず監督として引率すること。
勝敗にこだわり、選手を臨時に他のチームから移籍する等の行為があった場合は、そのチームを失格とし、今後の本大会への出場を認めない。
- (4) 監督、チームとも当該年度全日本柔道連盟に登録済みであること。
出場する選手は、出場するチームを通じて競技者登録をしていること。
(未登録チームは出場できないので、速やかに所属連盟に登録手続きを行うこと。)
なお、複数のチームの監督を兼任する事は認めない。
- (5) 脳震盪対応について
選手および指導者は下記事項を順守すること。
 - ①大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
 - ②大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、専門医[脳神経外科]の精査を受けること)
 - ③練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - ④当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- (6) 皮膚真菌症(トングランス感染症)について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。
感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。
もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場できない場合もある。

8 審判規定

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定及び国際柔道連盟試合審判規定「少年大会申し合わせ事項」で行なう。
※2014.2.14 「IJF 審判規定の全柔連導入について」による。
- (2) 試合時間
各部とも2分とする。但し、小学生の部における決勝戦及び中学生（男子・女子）の部における準々決勝以上は3分とする。
- (3) 勝敗の判定の基準
勝敗の決定基準は「一本」「技あり」「有効」「僅差」とする。「僅差」とは、双方の選手間に技による評価（技あり・有効）がない、又は同等の場合、「指導」差が2以上あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。得点差が無く、かつ「指導」差が1以内の場合は「引き分け」とする。
- (4) 試合場内の大きさは32畳とする。

9 試合方法

- (1) 団体試合とし、小学生の部・中学生男子の部及び中学生女子の部による3部制とする。
- (2) チーム編成は、小学生の部及び中学生男子の部は、監督1名、選手5名、補欠2名の計8名 中学生女子の部は監督1名、選手3名、補欠1名の計5名とする。
選手のオーダーは、負傷・事故防止のため体重の重い選手から順に大将から配列するものとする。
なお、試合中に負傷等で欠員が生じた場合も、大将から順に配列し、最も軽い位置を欠員とする。
小学生の部においては男女の混合は認めるが、中学生の部においては男女の混合は認めない。
- (3) 試合は小学生の部及び中学生男子の部は5人制、中学生女子の部は3人制の点取り試合とし、トーナメント戦により実施する。
- (4) チーム間の勝敗の決定は次のとおりとする
 - ①勝者数の多いチームを勝ちとする。
 - ②①で同等の場合は、「一本」(それと同等の勝ちを含む)による勝者数の多いチームを勝ちとする。
 - ③②で同等の場合は、「技あり」による勝者数の多いチームを勝ちとする。
 - ④③で同等の場合は、「有効」による勝者数の多いチームを勝ちとする。
 - ⑤④で同等の場合は、代表戦で勝敗を決する。
代表戦においては、当該と同じ時間で試合を行い、得点差が無く、かつ「指導」差が1以内の場合は旗判定で勝敗を決定する（GSは行わない）。出場する選手は、「引き分け」であった対戦の中から1試合を抽選で決定する。

10 表彰

- (1) 各部とも、優勝、準優勝、3位(2チーム)には長野県柔道連盟及び東洋水産株式会社から賞状、賞品を授与する。
- (2) 入賞チームの中から最優秀選手を選考し、各部1名にフレッド・ワダ杯を授与する。
- (3) 入賞チームの中から優秀選手を選考し、各部5名(女子の部は3名)に優秀選手賞を授与する。
- (4) 平成27年度マルちゃん杯全日本少年柔道大会への出場について
小学生の部上位4チーム、中学生男子の部上位6チーム及び中学生女子の部上位2チームは、平成27年9月22日(火・祝)東京武道館で開催される平成27年度マルちゃん杯全日本少年柔道大会への出場権を得る。
なお、全国大会出場選手は今大会のプログラムメンバーに限る。また、同一所属でA・Bの複数チームが権利を得ても、全日本少年柔道大会への派遣は1チームのみとする。

1.1 申込方法

(1) 申込期間 **平成27年4月1日(水)正午～4月21日(火)正午**

(2) 申込方法

長野県柔道連盟HP (<http://judo-nagano.net/>) より、「参加申込書」(Excelファイル)をダウンロードし、e-mailに電子データ(Excel)を添付して申し込む。(プログラムの原稿とする)

(3) 申込先 e-mailアドレス：mhfsf076@yahoo.co.jp

(問い合わせ先) 長野県柔道連盟 第27回マルちゃん杯中部少年柔道大会事務局

〒389-2322 長野県飯山市瑞穂2460-5 大平 勇一

携帯090-3217-8357 電話・Fax(自宅)0269-65-3809

(4) 申込確認 「申し込み」を受け付けしだい、確認メールを返信する。

1.2 選手変更

(1) 申し込み提出後の選手(補欠を含む)の変更は原則として認めない。

(2) 負傷等でやむを得ず選手が欠場する場合は、補欠より補充し、体重の重い順にチームを編成し、申し込みと同様の手続きを行う。

体重増減により配列に変更がある場合も届け出ること。

選手変更期間 4月22日(木)正午～5月26日(火)正午まで

以後の、やむを得ぬ事情による変更は監督会議前に大会事務局まで届け出ること。

(3) 当日試合中に負傷者がでたときは、補欠より補充し、改めて体重の重い順に大将より順に配列すること。

(4) 負傷等により変更した選手は、以後の一切の試合に出場できない。

1.3 組合せ 平成27年4月26日(日)長野県柔道連盟事務局において行う。

1.4 参加料 参加料は無料

1.5 審判会議及び監督会議

(1) 審判会議 5月31日(日)午前8時00分。松本市総合体育館会議室において。

(2) 監督会議 5月31日(日)午前8時30分。松本市総合体育館会議室において。

1.6 傷害保険等

(1) 主催者は、参加選手全員について傷害保険に加入し費用を負担する。

(2) 参加者は健康保険証を必ず持参すること。

(3) 主催者は、大会中の不慮の負傷・疾病については応急処置を施すとともに、傷害保険の範囲内で責任を負うものとする。 ※万一の事故の発生に備え、各チーム独自で傷害保険に加入するなどして万全の事故対策を立てておくこと。

1.7 ゼッケン

ゼッケンを下記要領にて必ず縫い付けること。付いていない選手は出場できない。

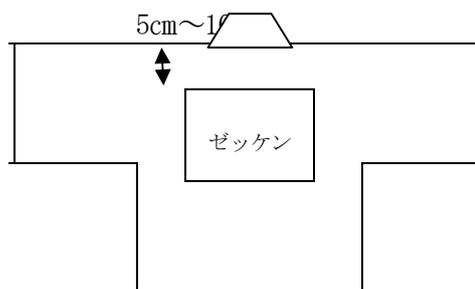
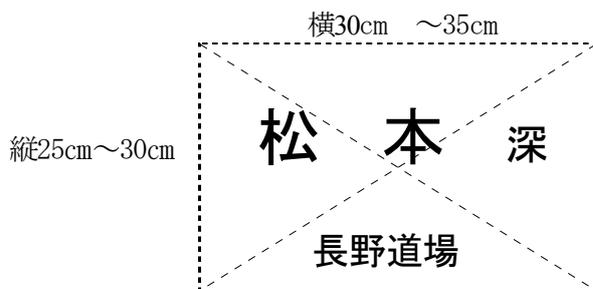
(1) チームに同姓がいる場合は、名前の最初の一字を加える。

(2) 図に示した位置に強い糸で、----の部分に縫い付ける。(必ず対角線にも縫い付ける)

(3) 上側2/3に苗字を、下部1/3に全柔連に団体登録した所属名(チーム名)を記載する

(4) ゼッケンのサイズは、概ね横30cm～35cm、縦25cm～30cmとする。

(5) 布地は白色とし、書体は太い**ゴシック**(楷書)で、男子は黒色、女子は濃赤色とする。



18 その他

(1) 宿泊及び昼食等の斡旋について

主催者では取り扱いません。長野県柔道連盟HPに旅行者の案内がありますのでご利用ください。

(2) 会場案内

会場及び近辺の駐車場に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

電車をご利用の場合 ◎JR松本駅から タクシー 約15分

アルピコバス 約20分(総合体育館前下車)

(3) 申込用紙に記載されている事項(氏名・体重・身長)は、大会プログラムに掲載されます。また、大会における写真等が新聞・雑誌・ホームページに掲載されることを、了承されたものとして扱わせていただきます

特別表彰について

東洋水産では、マルちゃん杯少年柔道大会開催にあたり、優秀選手に対する次の特別賞を設定し表彰を行っています。

○フレッド・ワダ杯

全国7地区で開催されるマルちゃん杯少年柔道大会において、各大会の最優秀選手賞として1989年に設置。1964年の東京オリンピック開催に尽力された日本オリンピック委員会名誉委員 和田 勇(米国名フレッド・イサム・ワダ)氏より「青少年に夢を与え、その健全育成に貢献する」との本大会の開催趣旨に賛同を頂き、「少年達の励みになれば」との意志を受けてその名が冠せられた。

(フレッド・ワダ氏 プロフィール)

1907年 アメリカ ワシントン州生

日系Ⅱ世として米国に生まれ、戦中・戦後、苦労を重ねた後ロサンゼルスでスーパーマーケットを経営する実業家として成功を収めた。

日本スポーツ界との関わりも深く、1948年全米水泳選手権大会に参加した古橋広之進・橋爪四郎選手等に自宅を開放し、物心両面で協力して大記録樹立を側面から支援した。また、日本の国際化・早期発展を願う使命感から、東京オリンピック開催に向け各国に協力要請の為奔走し、見事に大会の召致・成功に導いた。1984年のロサンゼルスオリンピックでも、日本柔道代表団の世話をを行った。スポーツ関係以外でも、米国における日系人社会の地位向上老人ホーム設立等の社会活動、日米両国の貿易発展・友好親善の増進にも多大な足跡を残した。

2001年2月死去(享年93歳)